

1. 主題構成表

主題名 いっしょに遊ぼう

資料名 およげないりすさん（出典：「私たちの道徳」）

■内容項目 B - (9) 友情、信頼
(低) 友達と仲よくし、助け合うこと。
(中) 友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。

■価値の分析

- ・「友達と仲よくし、助け合う」ということは、自分のことだけでなく相手のことも考えて行動することや、互いに理解し、認め、助け合うことである。友達は家族以外で特に深い関わりをもつ存在であり、友達関係は共に学んだり遊んだりすることを通して構築されるものである。
- ・低学年では、幼児期の自己中心性がまだ残り、友達の立場を理解したり、自分と異なる考えを受け入れたりすることが難しいことも多い。しかし、仲よく遊んだり、困っている友達のことを心配し助け合ったりする経験を積み重ねることで、友達のよさを強く感じるようになる。
- ・この時期の児童は、特に身近にいる友達と一緒に、仲よく活動することのよさや楽しさを実感できるようにすることが大切である。そこで、相手の気持ちを考えて行動することでみんなと一緒に楽しく活動できることに気付き、友達と仲よくしていこうとする心情を育てたい。

■内容項目から見た児童の実態

(意識)

- ・学校生活に慣れ、一緒に遊んだり、活動したりできる友達が増え、交友関係が広がってきた。
- ・「筆箱が落ちたよ。一緒に拾ってあげる。」
「ぼくの消しゴム使っていていいよ。」などとさりげなく手を差し伸べる姿がある。
- ・個々のやりとりの中で「ぼくが使うボールだから返して。」などと自己中心的な行動が見られたり、自分の好き嫌いで友達を選んだり、自分の気持ちを押し通すことがある。

■要因

- ・自分の思いだけで行動しており、他人が困っているところまで考えが及んでいない。
- ・困っている友達を心配し、助け合う経験が少ない。

■資料の分析

- ・初めは泳げないりすを仲間に入れてあげず、泳げる仲間だけで島へ渡って遊んでいた。しかし、遊んでいてもりすがいないとつまらないことを感じ、かめがりすを背中に乗せることを考えた。そしてりすも一緒にみんなで島へ渡り、なかよく遊ぶという内容である。
- ・「やっぱりりすさんがいたほうがいいね。」と話している 3 匹の気持ちを考えることによって、みんな一緒にでないと楽しくないことに気付いていく 3 匹の思いに共感することができる。
- ・かめがりすを背中に乗せるという考えを思いつき、4 匹みんなで島に行った方が楽しいという思いになった 3 匹の気持ちと、一緒に行けて喜んでいるりすの気持ちに共感することで、相手の気持ちを考えて、仲よくすることの大切さに気付くことができる。と考える。

■ねらい

自分の気持ちや都合ばかりでなく、相手の気持ちを考えることで、みんなと一緒に活動することの楽しさやうれしさに気付き、友達と仲よくしていこうとする心情を育てる。

■他の教育活動との関連

よいことを見つけ 友達のよい姿を見つけ、互いに認め合う。学級で仲よく助け合えたことを学級の歩みに位置付けていく。

■事前 休み時間 学級遊び
友達と仲よく遊べるように係を中心に遊ぶが、ルールを守れなかったり、自分勝手な行動があったりする。

■本時
「およげないりすさん」

■事後 生活科 なかよし会
なかよし会の準備で役割を分担し、どのように活動するとよいかなどを考えながら、お互いに助け合って「なかよし会」を成功させることをめあてとする。

■「私たちの道徳」の活用（授業前・授業中・授業後・活用しない）
（活用の仕方）資料「およげないりすさん」（P 7 8 ～ P 8 1）を活用する。

2. 学習指導過程

	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助
導入	友達と遊んだことを話し合う。 ○友達と休み時間にどんなことをして遊んでいますか。 ・ぶらんこ ・築山で遊ぶ。 ・ドッジボール ・おにごっこなど。	・日常生活の中で、友達とかかわっていることを押さえ、価値への方角付けをする。
展開前段	資料「おかげないりすさん」を聞いて話し合う。 ○りすから「ぼくもいっしょにつれていってね。」と頼まれたときに、3匹のみんなどんな気持ちだったでしょう。 ・泳げないからだめだよ。 ・りすさんは泳げないから、無理だよ。 ・また今度、遊ぼうね。 ○3匹のみんなは、どんな気持ちで、「やっぱりりすさんがいたほうがいいね。」と話していたのでしょうか。 ・りすさんがいないと楽しくないな。 ・やっぱりみんなで遊んだ方が楽しいな。 ・りすさんにだめと言ってかわいそうだったな。 ・どうしたらりすさんを連れてこれるかな。 りすさんをかめさんの背中に乗せて、島に行く3匹のみんなは、どんな気持ちでしょう。 ・4匹みんなで一緒に行けてうれしいな。 ・やっぱり、りすさんも一緒の方が楽しいよ。 ・ごめんね。これからはりすさんを一人にしないよ。 深めの発問 かめさんの背中に乗って、みんなに囲まれて島に行くりすさんは、どんな気持ちでしょう。 ・ありがとう。 ・みんな優しいな。 ・ぼくもみんなと一緒にいけてうれしい。 ○島に着いた後、4匹みんなはどんなことを話しているでしょう。 ・りすさんと一緒に遊べて楽しいな。 ・やっぱり4匹みんなで遊べてうれしいな。 ・みんな一緒にうれしいな。	・「泳げないからだめ。」と、りすを置いていったみんなの気持ちをおさえる。 ・「(かめさんたちに)だめだよと言われて、りすさんはどんな気持ちかな。」と補助発問し、連れて行ってもらえず一人ぼっちでさみしいりすの気持ちをおさえる。 ・「島には遊具もあるし、3匹だけで遊んでいるけど楽しくないの。」などと切り返すことを通して、りすだけ置いていってしまった罪悪感や、やっぱり一緒の方が楽しいという思いに変化したことに気付かせる。 ・児童が3匹の役になって役割演技をすることで、4匹みんなで一緒に行けて楽しいという思いに気付くようにする。 ・りすの気持ちについても考えさせ、「ありがとう。」「ぼくもみんなと一緒にいけて楽しい。」「うれしいな。」という気持ちに共感させる。 ・お互いがにこにことうれしい気持ちになれたことに気付かせ、価値を深める。 ・「島に着いた後、4匹みんなで遊びながらどんなことを話しているか」というお話の続きを想像させることを通して、ねらいとする道徳的価値の理解をさらに深め、確かなものにして、自己の生き方を振り返る活動につなげる。
展開後段	自分の生活を振り返る。 ○みなさんも、この動物さん達のように、友達のことを考えて一緒に遊べたことや仲よくできたこと、楽しかったことはありますか。そのとき、どんな気持ちでしたか。 ・休み時間に一人の子がいたので、「一緒に遊ぼう。」と誘って一緒に遊んだ。 ・「入れて。」と言ったら、○○さんが遊びに入れてくれてうれしかったし楽しかった。	・みんなと一緒に楽しく遊んだり、友達と仲よく生活している場面を写真で提示し、自分の生活を振り返る手がかりとする。 - 友達と一緒に楽しく生活していることに気づき、友達と仲よくしていこうとする気持ちをもたせる。
終末	児童の姿を紹介する。 ・日常観察より、友達の気持ちを考えて行動し、お互いに楽しかったことやうれしかった話を紹介する。	・友達の気持ちを考えて行動したことで相手が喜び、自分もうれしくなった話を紹介し、児童の実践意欲を高める。